

わにえか会汝我

THA後の初回脱臼期間検証

3割の患者が5年以上

恵庭市の我汝会えにわ病院（木村正一理事長、百町貴彦院長、150床）は、人工股関節全置換術（THA）後の患者の初回脱臼期間を調査。5年以上で初回脱臼になる患者が3割いることがわかり、加齢変化に対する予防的な運動療法や定期的な可動性や筋力、姿勢の確認が必要な可能性があるとした。



それぞれの手術や生活に沿った脱臼指導を実施

同病院では年間500〜600例の股関節手術を行っており、脱臼率は0・2％程度である。術後は作業療法士が多種と連携し、日常生活の中の脱臼予防の動作指導を行うが、過度な指導は活動制限につながりかねない。脱臼の特徴を分析した指導が必要であるため、THA後の初回脱臼時に整備を行った患者104例を対象に、脱臼

期間を後方視的に検証した。

初回脱臼期間は1年未満が52例（48％）おり、そのうち術後3カ月以内が45例（43％）を占めていた。1年以上5年未満は20例（19％）だったものの、5年以上は32例（30％）であった。

5年以上で初回脱臼となった患者は手術時の平均年齢が64・1歳と比較的若く、術後経過も長期となることが多い。加齢に伴う他関節の可動性の影響や、筋力、姿勢が変化することで、相対的に股関節の負担が増え脱臼につながる可能性がある。加齢変化に対する予防的な運動療法と定期的な可動性や筋力、姿勢の確認、それぞれの手術内容や生

活に沿ったADL指導の実施が重要とした。

一方、術後3カ月以内の早期脱臼が多い理由については、日常生活に戻り慣れ始める時期で、軟部組織が修復する前に物を拾う、畑仕事、掃除など股関節に無理がかかる動きを行ってしまうからとみている。

清本憲太作業療法士（非常勤）は「2回以上の反復脱臼になる時期も改めて検討し、脱臼というリスクを減らす動作指導を行っていきたい」としている。